

宮城県教育研修センター「生活科研修」における
小学校教員へのネイチャーゲーム体験

記入日：2015 年 6月5日
くりこま高原シェアリングネイチャーの会 塚原俊也（名前）

1. はじめに

宮城県の小学校教員研修（生活科）にて、生活科の授業にネイチャーゲームを取り入れることで子どもたちに豊かな体験の機会を増やすことを目的に講師依頼がありました。

ネイチャーゲームのアクティビティを授業ですぐに活用してもらえるように、そしてじっくり自然と向き合うことで先生自身がリフレッシュできるように考えて研修を行いました。

それぞれの学校に戻って生活科の単元に合わせて校庭や室内などで実施してもらえるように宮城県教育研修センターの庭を利用して、身近な生き物に目を向け、生き物の不思議を発見する楽しさや興味を引き出すことをテーマに、ノーズ、動物ヒントリレー、カモフラージュを実施しました。

その後、地域探検に活用できるように青葉の森で、フィールドビンゴを実施しました。ただ森を歩くだけでは気づかない森の美しさや面白さを発見できるようにネイチャーゲームを紹介しながらアクティビティを実施しました。

合わせて児童と野外でネイチャーゲームを行う際の安全管理についても伝えた。

その後、室内でネイチャーゲームについて入門講座テキストを利用して講義をおこなった。

2. 当日の実践内容

目的：宮城県小学校教員研修（生活科）

指導者：4名

参加者：20名

時間：午後1時～午後4時まで

場所：宮城県教育研修センターと青葉の森

アクティビティ：ノーズ、動物質問室、カモフラージュ、フィールドビンゴ、フォールドポエムの体験を通じて、小学校の生活科で実践できるアクティビティを紹介する。

3. 成果と課題

成果：事前に担当者と打ち合わせをすることで、生活科の教員研修の目的に合った内容を提供することができた。

体験を通じた学びを、実際に教員の方に体験してもらい楽しく学んでいただけた。

終了後アンケートから、フィールドビンゴは、地域探検などですぐに実施したいという意見が多かった。先生自身が新たな発見をしていた。またこちらで意図した教員自身のリフレッシュもできていたことを感じた。

課題：事前に持ち物の案内をしていたがシューズや服装が不十分な人がいた。

森の散策があるので動きやすい服装と靴、帽子、虫除けなど虫にさされないように準備と記入していたが、ハイヒールや革靴、スカートなどで参加していた人がいた。また帽子に関しては、持参していない人が多かった。

→持ち物の伝え方の工夫が必要

入門講座テキストを使っただけの講義の時には、こちらからの一方的な伝達にならないように工夫をしたが、もう少し先生方の話を引き出すと良かったと感じている。

4. 本報告を参考にされる方へ

学校の先生には森遊びや野外での活動に不慣れな先生もいるので、事前の服装やシューズの案内をしっかりと行う。

子どもの特性を考慮した野外の安全管理（セーフティトーク）やアクティビティの進め方（コツ）なども伝える。

5. 活動写真

撮影の許可が取れなかったので写真は無し

6. プログラム ※地域実践等用

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
11:00	スタッフ集合、打ち合わせ、現地当日下見	安全管理、最終役割分担の確認 2グループ	
13:00	参加者集合 挨拶 ネイチャーゲーム体験 ・ノーズ ・動物ヒントリレー ・カモフラージュ ・フィールドビンゴ ・フォールドポエム	アイスブレイク ネイチャーゲームが初めての人も児童と一緒に実践しやすいアクティビティを紹介した。	・ネイチャーゲームが初めての人も児童と一緒に実践しやすいアクティビティを紹介した。 ・子どもと校庭でカモフラージュを行う時のグッズの設置のコツやルール説明のやり方、絵本を使った振り返りなど指導法も伝え、アクティビティを体験していただいた。 ・フィールドビンゴはにおいなど個人差のある感覚にも焦点を当て児童の個性や互いの違いを尊重することやグループで行うことで合意形成や他社との関係性を築くことにもつながることをせつめいした。
15:30	講義 ・ネイチャーゲームについて ・アクティビティの意図開き	参加者からの感想 学校の校庭の自然を使って、身近な自然やで遊んだり、子どもに自然を見る面白い視点を紹介できることを知った。	
16:00	終了 参加者解散 片付け、スタッフ振り返り		・各アクティビティは児童がうまくできたかどうかより、楽しい雰囲気に参加者一人一人の個性や感性を尊重しあえるようなわかちあいや振り返りの内容や言葉がけを心掛けた。